

令和8年度第1回都留市公立大学法人評価委員会の審議要旨

日	時	令和8年8月6日（木）	13：25～15：10
場	所	都留市役所3階大会議室	
出	席	原護委員長、青山伸一委員、室谷裕志委員 荻原秀祥委員、降矢結城委員	
説	明	福田理事長、加藤学長、佐藤副学長、西尾副学長、清水事務局長、 （法 人）横瀬総務課長、山本経営企画課長、上野学生支援課長、小俣教務課長、 鈴木総務課長補佐、井上経営企画課長補佐、長坂学生支援課長補佐、 有賀教務課長補佐、各担当リーダー	
事	務	局 鬘櫛総務部長、笠井企画課長、森嶋課長補佐、石原企画担当リーダー、 佐藤企画担当	

会議の概要

（13時25開会）

1 開会 （司会 笠井企画課長）

2 総務部長挨拶 （総務部長 鬘櫛 美咲）

3 理事長挨拶（理事長 福田 誠治）

4 委員の紹介

5 出席者の紹介

6 議題

（1）令和7事業年度に係る業務の実績に関する評価について

法人事務局より令和7事業年度の業務の実績報告書（会議資料2）及び事前に
評価委員から意見のあった一部（会議資料3）を中心に説明。（各課課長）

（2）第4期中期目標策定に係るスケジュール（案）等について

事務局より第4期中期目標策定に係るスケジュールや今後の進め方を中心に説明。
（会議資料4）

(1) 令和7事業年度に係る業務の実績に関する評価について

○各委員からの意見・提案等（文頭の数字は会議資料3表中のNoを表し、No順に掲載）

2	（室谷委員） 「アクティブ・ラーニング科目」の開講は3年次からとの説明があったが、1年次に対して開講していない理由としては他の教養を優先してほしいという意図か。
⇒	（小俣教務課長） ご認識のとおり。
5	（青山委員） 入学志願者数については本校に限らず、他大学においても苦慮しているところであり、公立大学といえども今後の課題である。なお、「出願実績等を踏まえた重点エリア」を選定しており、2025年は北海道、北関東、静岡県であるが「重点エリア」の選定理由は何か。また、2026年の「重点エリア」の選定場所はどこか。
⇒	（山本経営企画課長） 「重点エリア」とは毎年度、本学にて分析を行い、特に募集人員の確保が必要なエリアを抽出することで効果的な志願者確保を目指すものであり、エリア絞ることで重点的に高校訪問や情報発信を通して志願者確保に努めている。2026年は千葉県が候補の1つである。
13	（室谷委員） 学生の履修指導については、GPAだけに着目しても履修数が少ない学生には、正確な指標にはなり得ない。本校の、履修の上限は単位数でいくつか。また、GPAが低い学生の履修数の追跡を行い、GPAの低い学生の特徴を把握しているか。
⇒	（小俣教務課長） 単位数の上限は年間で（原則）48単位としており、半期では24単位である。また、学生の履修数等は把握・追跡しているもののGPAの低い学生の特徴が履修数に関連しているとは言えず、特徴は様々である。
17	（室谷委員） MDASHについて将来的に上のレベルで行いたい意向はあるか。
⇒	（加藤学長） 将来的には上のレベルで行いたいと考えているが、本校の特徴として「数学」を受験科目としていない学生が多いため、まずは全学生がリテラシーレベルを身に付けることを目指している。
32	（青山委員） 現行の教育自己評価から教員業績評価制度に繋げるのは、非常にハードルが高い。今年度すでに教員業績評価制度の検討は進んでいるか。
⇒	（横瀬総務課長）

	事務局としても難しいことであると理解している。ご認識のとおり現状、検討している段階であるため今年度中に教員と検討を進め、適切な制度の設定を行いたい。
32	(室谷委員) 自己評価結果の平均値については、5段階評価になっているものの、「SS,S,A,B,C」と高い評価に偏っている。S以上に評価が偏ると適正な評価ができず、評価自体の意味合いが薄れるのではないか。
⇒	(加藤学長) 仰るとおり、当5段階評価では、高い評価に偏ってしまう可能性が高い。本大学としては、これまで段階評価の見直しができていなかったため、委員からの意見を伺いながら適正な評価ができるよう検討していく。
37	(青山委員) 【数値目標】で三者協議会を2回行うことを目標指標にしており、実績が1回であったことに対する大学の評価が「1」となっている。【数値目標】を見ると低い評価になるが、行った内容で評価してもよいのではないか。また、令和8年度について、対面協議は順調に行われているか。
⇒	(上野学生支援課長) あくまで【数値目標】の観点から評価を行っているため、大学としても「1」でも仕方ないと考える。令和8年度についても前期はオンライン開催となっており、後期の学生大会は対面での開催を目指す。
37	(原委員) おこなった内容自体を評価してもよいと考える。大学側でも引き続き検討されたい。
51	(降矢委員) 「学生チャレンジプロジェクト」について、学生を会に取り入れてニーズを調査したりする検討会を開く予定はあるか。取組自体は素晴らしいものの、応募件数が伸びない理由には、お互いのニーズが合っていないことが考えられるため実際にチャレンジする学生の意見を汲み取れる検討会が効果的と思慮している。
⇒	(上野学生支援課長) これまで学生を巻き込んだものは検討してこなかったため、いただいた意見を参考に検討していく。
51	(室谷委員) 「学生チャレンジプロジェクト」で効果的なものとして「目玉」になるものを作ること、教員がガイダンス等で積極的な広報活動を行うことの2つが重要である。学生側に丸投げではなく、大学側で仕掛けることが求められる。
51	(青山委員) 「真に必要な制度」であるかは今一度考えていただきたい。

⇒	(上野学生支援課長) いただいた意見を参考に引き続き検討を行っていく。
76	(青山委員) 「つるフィールド・ミュージアム」の場所は沿線から近いのか。
⇒	(横瀬総務課長) 都留文科大学前駅から徒歩5分程度の立地である。
86	(原委員) 教職員の評価システムに関する議題は、第3期中期計画が始まってから現在まで、進捗が芳しくない。第3期の期間内で一定の結論は出していきたい。AIの活用を含めた検討をお願いする。
103	(青山委員) 一般管理比率を見て評価を「5」としているが、個人的には「4」であり、経費の節減については比率とあわせて総額の低減を目標にされたい。
⇒	(横瀬総務課長) 施設規模の拡大や物価、人件費の高騰が見込まれているが、さらなる経費削減に努めていく。
117	(降矢委員) 「情報セキュリティアンケート」を匿名としている理由は。
⇒	(山本経営企画課長) 特段こだわった理由はないため、アンケートの回答方法については引き続き検討していく。
117	(室谷委員) 学生のPCについては、学生側に用意してもらう方向となるか。経費の削減等のメリットがある反面、電源の不足、セキュリティの問題といったデメリットがある。本校の現状の方針はいかがか。
⇒	(加藤学長) 現状、PCについては各自で用意していただく方針である。
124	(青山委員) 「コンプライアンス研修」でも同様の記載であったが、「オンデマンド受講できる体制100%」とは受講率100%という意味か。
⇒	(横瀬総務課長) ご認識のとおり。

○とりまとめ、最終評価について

協議を踏まえ、一部に遅れはあるものの全体として順調に推移していることから「中期計画の進捗は順調である」のA評価としてよいか。(原議長)

⇒異議なし。(一同)

(2) 第4期中期目標策定に係るスケジュール(案)等について

⇒特段意見、指摘事項等はなし。

7 その他

(1) 大学運営の現況と課題（都留文科大学 学長 加藤敦子）

⇒（会議資料5）に沿って説明

○各委員からの意見・質問等

（青山委員）

I R 室の説明があったが、どのような体制か。また、学長直轄のものであるか。

（加藤学長）

教員が3名、事務職員が2名の体制であり、理事会直轄である。

(2) 今後の進め方について（企画担当）

○各委員会の意見・質問等

（原委員）

第4期中期目標を決定するにあたり、より具体性のある内容にしていたきたい。

8 閉会

（15 時 10 分閉会）